

千城台野鳥観察園について

和仁道大

私が住んでいる千葉市若葉区千城台には千城台野鳥観察園という所がある。雨水調整池とおむすび山という木の茂った小山があります。周辺は住宅地で南側はバス道路、北側のおむすび山の隣は小学校であります。この調整池ができたのは1970年ころ千城台住宅地が造成されたときです。時を経るにつれ、カモやサギ類がここに集まるようになったので、1988年に千葉市が観察用シェルターを2か所作り、千城台野鳥観察園と命名されました。去年からシェルターに坂本文雄さんの野鳥の写真が掲示されています。私の家から当所まで約1kmの距離ですが、毎朝散歩を兼ねて1989年以来今日まで31年野鳥観察園の野鳥のカウントを続けています。

ここの特徴は住宅地にありながら、初夏にはゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギなどが営巣することです。街中でこんなに多くのサギが営巣している場所はほかにないでしょう。ダイサギが孵ったばかりの雛に親鳥が遠くからエサを運んできて給餌します。給餌を終えた親鳥は休む暇もなく、餌を求めて飛び立ちます。雛が飛べるようになると早朝に餌を求めてここを飛び立ち、夕暮れ時におむすび山に帰ってきます。7月夕刻のおむすび山はダイサギで一面真っ白になります。しかし8月もお盆を過ぎるとダイサギはどこかへ飛び去ってしまいます。

10月になるといろいろなカモが池にやってきます。最も多いのはオシドリで、100羽以上見られることもあります。ただしオシドリは池の中央に出てくることはまれで、池の端のおむすび山の木陰に隠れているので、双眼鏡で見ないとよく見えません。今年の11月に見られたカモはオシドリ、オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロなどです。ほかに水鳥としてはカイツブリ、カワウ、オオバンなどが見られます。カワセミもよく見られ、ときには2羽と一緒に飛んでいることもあります。残念なのは以前よく見られたバンがほとんど見られなくなったことです。

皆さんも現地に野鳥を見に来てください。千葉駅からだと、京成バスで千05又は06御成台行きで千城台西公園で下車するとすぐ近くです。



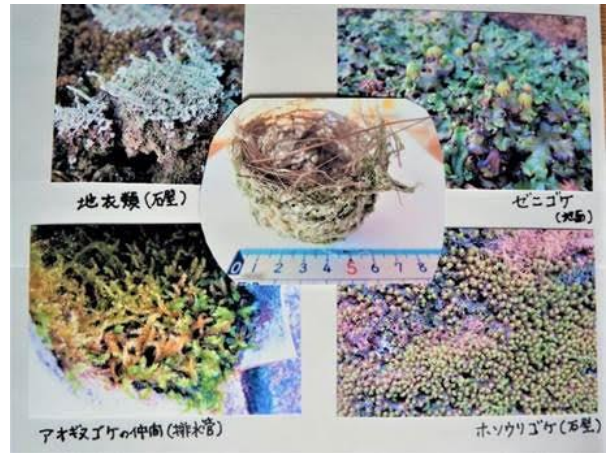
メジロの巣と苔

晩秋にしては暖かい日、犬との朝の散歩道、電柱の陰に小さい野球ボール程の丸いものが落ちていました。きれいに編まれた鳥の巣です。検索してみると（検索方法：場所→市街地・樹上、材料→苔・枯れ草、形→おわん型、直径→13cm未満）カワラヒワとメジロに絞られ、添付写真でメジロのものであることが分かりました。見事な工芸品を作ったのは我が家の山茶花にも来るメジロ達でした。巣は緑の苔、茶の枯草のほかに白く細いビニールなども使われています。メジロは一回使った巣の再使用はしないらしく、内部の状態から雛鳥達が巣立った後の空き家だと思えます。

使われていた苔が気に入り、次の日、近くで苔を探してみました。石壁にホソウリゴケなどの蘚類・樹状突起を持つ地衣類達、道路わきの土にゼニゴケ達、湿った公園や擁壁の水が残る排水管でアオギヌゴケの仲間を観ることができました。近くを一回りしただけで10種類もの苔がありました。

写真をネットで調べましたが、私にできたのは前述程度の判別でした。メジロの巣の材料になった苔は細長く、樹上で生活するイトゴケ類のようです。幼稚園の孫が苔を観たいというので再度観察に行くと“森のようだね”と感心。興味が湧いたので苔類が元気になる来春にもう一度観察してみたいと思います。

（中村高士 富里市）



ヤブレカブレの感性

枯葉が舞う季節になりました。昨年の今頃、松戸市の八柱霊園で観察会をした時のこと。樹木の説明を終えて、一歩踏み出した途端、「ヤブレカブレね」の一言。振り返ると参加者が一枚の葉を手にと、これよと言わんばかりのポーズ。「ヤブレカブレじゃない？」と重ねる。葉に強い切れ込みがあって、破れた葉のようだと思ったのでしょうか。なるほど、「そうきたか」。その人の感性からにじみ出るもの、これは大事なかもしれないと思った。

観察会となると、「ピンオーク＝アメリカガシワ、左右対称に5対～7対の切れ込みがある葉を持ち、アメリカ東部原産のコナラの仲間」と伝え、参加者の顔を見渡す。

もちろん間違いではない。参加者にこれだけは覚えてほしい「キャッチフレーズ」を探す。参加者が何を求めて集まっているのか。時に迷う。

道を歩き、生き物の話をしながら探りを入れる。クモは大丈夫か、チョウはどうだろうか、当たり障りのないところで行くときもある。

当日の参加者は「キャッチコピー」が効果的だった。強い剪定を受けて大きくなったケヤキの葉を普段の大きささと比べた時には「いじられて育つよ」とそんな雰囲気だった。

参加者から多くのものを仕入れることのできる観察会、参加者の優れた感性も次に使えそうな「お宝」に見えてくる。（藤田 隆 松戸市）



八柱霊園で集めた紅葉で表現

佐野由輝さん、こんぶくろ池に来園！

自然観察ちばメールマガジン「北の国だより」でおなじみの佐野由輝さんが、柏市のこんぶくろ池自然博物公園に 11 月連休帰省の際に来園された。一緒に森を歩きながら、土壌の厚さや森の木々の状態などの説明をしていただいた。こんぶくろ池の森は地下水位が高く、冷温帯時代の植物（ズミ・サワシロギク・クロウメモドキ）が現在でも細々と命を繋いでいる場所だ。特に NPO で保全に力を入れているズミの管理などでも森の明るさに注目してヒントをもらった。土壌の厚さ計測では竹ひごを地面に刺してスッと入る深さまでが A 層※との事で、こんぶくろの土壌では約 10cm。1 cmの厚さの土壌が形成されるまでおよそ 100 年かかるとの事なので、なんと 1000 年の積み重ねの土壌という事。A 層の上に落ち葉が堆積している部分が O 層（有機物層）、こんぶくろでは O 層が薄いとの事。分解のスピードが速いのは地下水位の高さが関係しているのかもしれない。

今回、佐野さんのご案内では林業用語など普段聞きなれない専門用語なども交えながら、森の管理や木々一本一本の状態まで詳しく知ることができた。自然観察指導員のお仲間でも地元の里山団体や森の保全活動をされている方が多いが、林学の目線で森を見てみると気付きが多くより深く理解することができる。機会があればもっと詳しく勉強してみたいと思った。（佐野さん、またよろしくお願いします！）

※A 層…落ち葉が分解され土と有機物が混ざったやわらかな層

川瀬美幸（柏市）

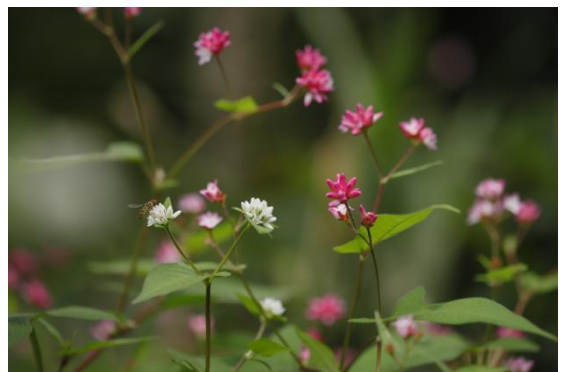


里山に咲く花

9 月末より 10 月にかけて水辺や湿地帯に赤、白やピンクの花がかなり広範囲に咲き広がります。

紅白の花を揃えて撮るにはいつも苦労させられる。まして背景もとなると撮る角度があるので今回はこんなもんで勘弁してほしい。

（写真・文 赤松義雄 袖ヶ浦市）



R2.10.11 袖ヶ浦市椎の森

北の国だより

11月に入り、札幌市内でも、初雪が降り、朝晩の冷え込みも厳しくなってきました。千葉県とは違い、北海道には、常緑広葉樹が自生していないため、トドマツやエゾマツを除けば、山の木々はすっかり葉を落とし、冬の姿になりました。
(佐野由輝)

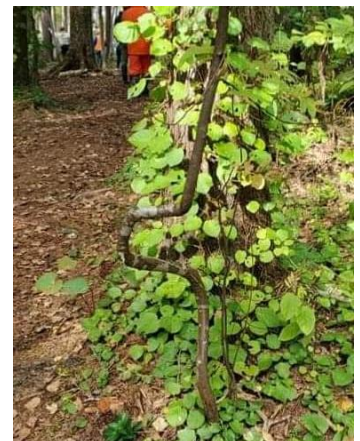
地平線まで続く黄金の輝き！

私が勤務する北海道森林管理局管内の国有林にパイロットフォレストと名付けられたカラマツ人工林があります（北海道東部の厚岸市及び標茶町）。この地は、かつては、入植者の失火等による山火事が頻発したことに加え、元々湿地帯であったこともあり、一面の荒野が広がっていました。そこに、昭和30年代から、カラマツの造林を進めた結果、今では、黄金色の葉が地平線まで続くカラマツ林に育ちました。その面積は約6000ヘクタールで、私の家族が住んでいる大網白里市の面積を超えます。そして、このパイロットフォレストを、今後、100年、200年かけてどのような森林に誘導していくかを検討しているところです。



雪の中でもたくましく生き抜く樹木

北海道の森の中を歩くと、このような不思議な形をした木を良く見かけます。素直にまっすぐ伸びれば良いのに、わざわざ、右に曲がったり、左に曲がったり、どうして、こんな育ち方をしたのでしょうか。実は、このくねくねと幹が曲がった部分は、雪で埋まっていた箇所なんです。このような幹の形を「ちょうちんだたみ」といいます。長い期間積雪が続くと、重力の影響を受けて、積雪全体が下の方向に圧縮されます（沈降圧）。若くて細い木の場合、この圧力に幹が耐えられなくなり、ぐにゃっと曲がり、春になって、雪が溶けると太陽の方向に幹を伸ばし、冬になって雪が積もると再びぐにゃっと曲がる。そして、積雪の深さを超えると、まっすぐ伸びるようになり、このような不思議な形になったのです。



イチョウの葉はイチヨウではなくタヨウ

イチョウといえば、国指定の天然記念物である市川市の葛飾八幡宮の千本公孫樹が有名ですね。千本公孫樹に比べれば、赤子のような年齢のイチョウですが、北海道大学のイチョウ並木も札幌では有名な観光スポットとなっています。

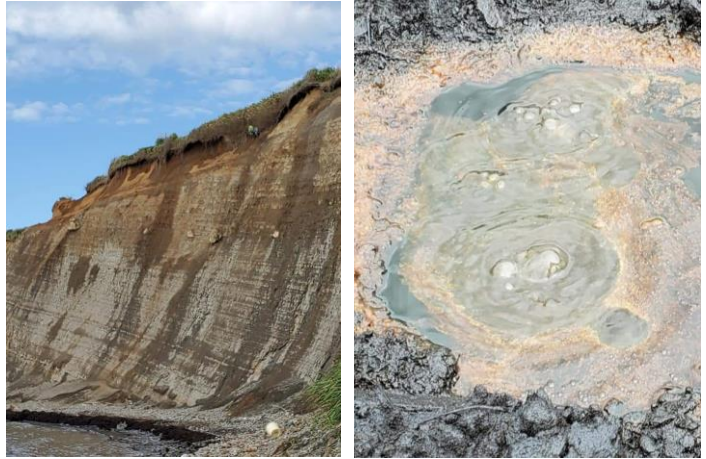
さて、皆さんは、イチョウの葉っぱの形と聞かれて、どのような形を思い浮かべるでしょうか？関取が結う大銀杏のちょんまげの形を思い浮かべる人が多いと思います。ところが、よくよく観察してみると、イチョウの葉っぱは多種多様。典型的な大銀杏の形をしている葉っぱもあれば、扇型の葉っぱ、スポン型の葉っぱ、破れ傘のような葉っぱ、珊瑚のような葉っぱ等々、一枚として同じ形の葉っぱはありませんね。イチョウの葉っぱはイチヨウ（一様）ではなくタヨウ（多様）ですね。



石炭だけではなかった北海道

かつて、北海道には、多くの炭鉱があり、夕張市を始め炭鉱の町として栄えていました。石炭産業は、かつては、日本の高度経済成長を下支えしていましたが、その後、採算が合わなくなり、ほとんどの炭鉱は閉鎖されました。今では、釧路市に日本で唯一営業採炭を続けている炭鉱があります。

ということで、北海道＝石炭というイメージが強いと思いますが、実は石油の産地でもありました。石狩平野には、石狩油田、厚田油田、茨戸油田の3つの油田があり、昭和40年代まで操業が続いていました。石油の起源となっているのは、約1000万年以上前のプランクトンの遺骸であり、日本が輸入している中東の石油よりは新しいですね。操業は終了しているものの、今でも、石油がしみ出した油徴が点在しており、天然ガスの気泡がぶくぶくと湧き出している様子を観察できます。まさに、1000万年前の生命の息吹ですね。



全国から注目される自然観察ちばの取組

11月22日、自然観察指導員三重連絡会の会員対象としたYouTubeライブによる勉強会「学校で自然観察をしよう！」が開催され、小学校自然観察支援ネットワーク（SSN）や子ども自然観察会（親子田んぼ教室の前身）など千葉県自然観察協議会が取り組んできた活動について紹介させていただきました。今年1月に大阪で開かれた自然観察指導員全国大会で、「誰一人取りのこさない自然観察会をめざそう」と題した講演を聴いた三重連絡会の事務局長から勉強会の依頼があったことがきっかけです。三重連絡会では、これまで、学校を対象とした自然観察会を組織として実施したことがなかったため、自然観察ちばの取り組みを参考にしたいとのことでした。日本自然保護協会でも、2030年に向けた取り組みとして、「すべてのこどもに自然を！」プロジェクトが始動しています。

SSNがスタートしたのが1999年、子ども自然観察会がスタートしたのが2003年、これまで、数多くの自然観察ちばの会員たちが試行錯誤しながら、確立してきたこれらの取り組みが、全国から注目を浴びています。

なお、YouTubeライブの映像は、12月13日（日）まで視聴可能ということなので、ご興味のある方は、時間のあるときに以下のアドレスにアクセスしてください。

<https://youtu.be/teJq5la78A>



樹木のスケッチ～描いて発見する自然のすばらしさ～ (中田真也子)

今月は、必要があって沢山の樹木の絵を描きました。ざっくりとした絵ですが、何の樹木かお分かりいただけますでしょうか？

実物を手に取ることができない植物も多かったので図鑑や自分の撮った写真やネットの写真を見ながら描きました。でも分からないことだらけ・・・仕方がないのでごまかして描きました(^_^)なのであまり拡大して見ないようにお願いします！！

実際に見ることの大切さを改めて感じてしまいました。



私のコレクション・モズのはやにえ

東葛しぜん観察会 鈴木 俊二(我孫子市)

モズは捕らえた獲物を木の枝などに突き刺す行為を行います。このことを「モズのはやにえ」として知られています。昔からモズの「高鳴き」や「はやにえ」に関する言い伝えや風習が在りますが、はやにえは何のために行われるかまったくわかっていません。私が野鳥観察の中で撮影した18個のはやにえでわかったことをまとめましたので、何かの参考になれば幸いです。

- はやにえをした日：10月11日～1月6日の間に観察（全18回）
【2013.12.23(3)、2016.10.11、11.9(2)、11.12、12.17、2017.1.4、1.5(2)、11.12、12.5(2)、2018.12.11(2)、12.24、2019.1.6】（かっこ）：個体数
直接目撃したのは2回(下線)です。そのことにより同じ場所で複数個確認されたはやにえは同じ個体が刺しています。また、時間帯は午後2時ごろです。よくわからないがはやにえが多く見られる年と少ない年があると思われます。
 - はやにえの場所：公園、田んぼ、荒地の比較の見晴らしの良い開けた場所の縁につくる。モズがいる場所に必ずしもはやにえがあるとは限りません。
【根戸森・岡発戸(我孫子市)、21世紀森と広場(松戸市)、房総風土記の丘・北印旛沼(成田市)、牛久沼水辺公園(牛久市)、守谷鳥のみち(守谷市)】
 - はやにえの位置：眼線の高さがほとんどで、80cm～3mの間で見られます。
 - はやにえの刺し方：突き刺してあるのは14箇所、挟んであるのは4箇所
 - はやにえの生き物：アメリカザリガニ(2)、オオスカシバ、オケラ、カエル(2)、コオロギ、コバネイナゴ(3)、ツチイナゴ(2)、バッタ(4)、ミミズ、ムカデの10種類です。
 - 刺した枝の種類：竹(3)、サクラ(4)、ミズキ、カラタチ、オオブタクサ(2)、コマツヨイグサ、セイタカアワダチソウ(2)、ヒメコウソ、その他不明(3)
- 私のコレクションとしてモズのはやにえを写真にしていますので見てください。

私のコレクション ・モズのはやにえ

2020.11



スズメバチ
根戸森
2016.12.17



モズ♀



モズ♂



オケラ
守谷鳥のみち(守谷市)
2016.11.12



コオロギ
根戸森(孫子市)
2017.1.5



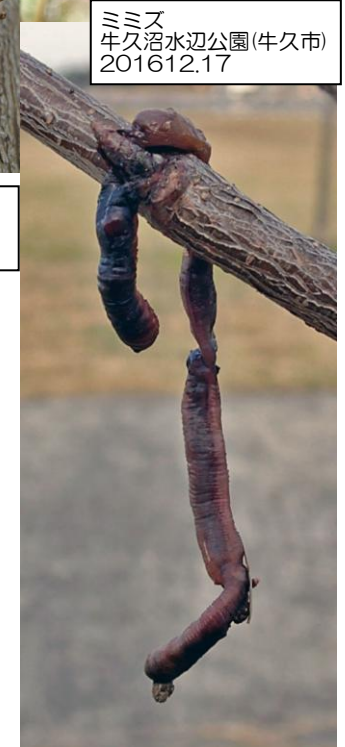
ツチイナゴ
房総風土記の丘(成田市)
2013.12.23



オオスカシバ
21世紀の森と広場(松戸市)
2019.1.6



アメリカザリガニ
岡発戸(我孫子市)
2017.1.5



ミミス
牛久沼水辺公園(牛久市)
2016.12.17



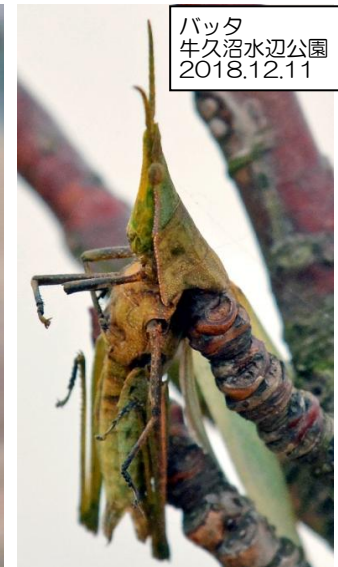
カエル
房総風土記の丘
2013.12.23



コバネイナゴ
北印旛沼(成田市)
2017.12.5



ムカデ
房総風土記の丘
2013.12.23



バッタ
牛久沼水辺公園
2018.12.11